

(教育委員会用)

平成28年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	入間市
-----	-----

I 概要

1 事業の概要

(1) 障害者アスリートの講演会

立ち幅跳びの選手・車椅子バスケットボールチームの選手からお話をいただきました。児童生徒が障害者トップアスリートの体験談を真剣に聞きました。仲間同士で支え合う強い絆の大切さやハンディキャップを乗り越えようとする意欲や工夫を学ぶことができました。

(2) 特別支援学校との交流

市内にある特別支援学校と対象の市内小・中学校の児童生徒がスポーツを通じた交流及び共同学習としてフライングディスクを一緒に行い、お互いの理解を深めました。児童からは、「みんな笑顔でできてうれしかったです。」や「声かけやハイタッチをしてよい交流ができました。」等温かい感想が聞かれました。

(3) 障害者スポーツの体験

対象の小・中学校児童生徒が車椅子バスケットボールを実際に体験しました。児童生徒からは、車椅子バスケットボール選手の技能を見て技能の高さに驚くとともに、技能を追求する意志の強さを感じ取っていました。

2 事業の成果

(1) 教職員研修について

- ・ 児童生徒に指導する前に夏季休業を利用して教職員研修を実施しました。具体的には、市内在住の視覚障害者の方に講演をいただいて、障害について考える機会を設けるとともに、指導力の向上を図りました。参加教員からは、「盲導犬は安全に外出でき、自分の足でどこへでも出かけられる勇気を与えてくれる存在であり、視覚障害者の方々の生活の質を向上しているのだと感じました。」等の感想が挙げられました。

(2) 児童生徒の事前学習について

- ・ 障害者アスリートの講演や障害者スポーツ体験を行う前に道徳授業を行いました。事前に行うことで児童生徒の心構えと障害についての理解が深まりました。生徒の道徳ノートには「私はお互いに「助け合う」ことが大切かなと思いました。「助け合う」ことは普通の生活にもよくあることですが、障害者の方もみんなと同じように生活したいと思っていますと思うので、普通に生活できる環境を作り、「助け合う」ことが大切だと思いました。」等の感想が挙げられ、心を耕すことができました。

(3) 障害者アスリートの講演会について

- ・ 指導者として身近な市内在住の障害者アスリートの方を招きました。近所に住んでいる方がアスリートとして国民体育大会等に参加し、好成績を収めているということで興味・関心を持って講演を聞くことができました。

(4) 特別支援学校との交流について

- ・ スポーツを通しての交流では、児童にも比較的簡単にできるフライングディスクを取り入れました。事前に教職員も体験し、どのように児童に指導したらよいか研究してから取り組みました。また、特別支援学校の施設を利用することで、施設のバリアフリーのよさを体験することができました。更に、障害者交流センターの方を招き、交流を深めることで言葉かけや配慮の仕方についても学ぶことができました。

(5) 障害者スポーツの体験について

- ・ 車椅子バスケットボールチームを招き、体験を行いました。障害者交流センターと連携して、競技用車椅子を多数借りて、参加した児童生徒全員が体験できるようにしました。また、車椅子バスケットボールの実演やルールの説明や障害についてのお話もいただき、理解を深めることができました。教職員からは「競技用車椅子を誰よりもかっこよく操り、ゴールする姿は、誰が見ても心を動かされます。そこには、障害の有無はありませんでした。」等の感想が挙げられました。

(6) その他

- ・ 障害者スポーツ選手の講演を拝聴することで、ハンディキャップを乗り越えようとする意欲や工夫を学ぶことができました。
- ・ 車椅子バスケットボール用の車椅子や幅跳び用の義足などの説明を聞き、実際に見ることで、過去の体験を生かした様々な工夫や努力を学ぶことができました。
- ・ スポーツ交流を通して一緒に声を出し、汗をかくことで「スポーツの力」を改めて感じることができました。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

- ・車椅子バスケットボール体験は地元ケーブルテレビに取材にきていただきました。また、本年度の活動をリーフレットにまとめ、市内の小・中学校に紹介しました。更に、3月には、ホームページにリーフレットを公開する予定です。来年度は、フライングディスクでの交流や道徳授業では、保護者や地域・他校にも参観していただき、取組を広げていきたいと考えます。
- ・地元の人材を発掘して障害者を招く場合の費用負担を少しでも減らし、他校でも実践できるようにしていきたいと考えます。また、フライングディスク等、用具を少しずつ揃えていきたいと考えます。
- ・特別支援学校との交流はスポーツ交流をとっかかりとして、生徒会や体育祭や文化祭等学校行事にも広げていきたいと考えます。